TKC西東京山梨会山梨支部

山梨中央銀行・関光良頭取との対談

■とき：令和4年12月2日㈮　■ところ：山梨中央銀行本店

毎月のMIS推進会議が功を奏する

岡野　本日はお忙しい中、関頭取には情報交換のお時間をいただき、ありがとうございます。「TKCモニタリング情報サービス（MIS）」の利用促進についてもご理解賜り、感謝申し上げます。

関　TKC西東京山梨会山梨支部さんとの毎月のMIS推進会議において、全国の地銀・第2地銀99行中、利用申込件数がトップ50に入ったらこの情報交換会を実施するとのお約束を守れて、とても良かったです。

池田　MIS推進会議の時間を毎月設けていただきありがとうございます。会議の中で支店ごとにMISの目標を掲げ、行員さんから直接融資先企業へ働きかけていただいたおかげで、貴行での実績が1000件の大台を突破しました。

関　今は昔と違い、法人の決算書を紙で集め、システムに再度入力している時代ではありません。MIS等の活用により、データとして直接受け入れ、空いた時間は一社でも多くの融資先企業と接する時間に充てています。

岡野　貴行は「中期計画」において生産性倍増戦略として「事務ゼロ」を標榜されていますね。TKC会計人もいかにDXに対応し、関与先企業を支援していくかが問われています。

書面添付で決算書の信頼性を確保

池田　MISでは、決算書だけではなく税理士の権利である「書面添付制度」による添付書面も提供し、決算書の信頼性、正確性を担保しています。添付書面には「計算し、整理した主な事項」や「顕著な増減事項」の記載により前期（前年）等と比較して金額が顕著に増減したものについて、その原因・理由等を「増減理由」欄に具体的に記載し、関与先企業の実情を明らかにしています。

また、MISで提出できる「記帳適時性証明書」は㈱TKCが発行する第三者証明であり、「税理士が行う納税者の帳簿書類の監査の頻度」を一目瞭然で把握することができます。

山寺　書面添付のお話がありましたが、今年（令和4年）も「書面添付シンポジウム」に参加させていただき、ありがとうございました。参加した支店長からは「大変有意義な催しで、特に日本金融人材育成協会会長の森俊彦氏の講演が参考になった」との報告を受けております。

岡野　森会長は講演で、中小企業には「課題設定型伴走支援」が求められてい

出席者（敬称略）

■山梨中央銀行
頭取　関　光良
常務取締役　山寺雅彦
コンサルティング営業部部長　勝俣賢一

■TKC西東京山梨会山梨支部
西東京山梨会会長　岡野哲史
西東京山梨会副会長　深沢邦秀
山梨支部長　池田善一
相談役　中込敏彦
事務局長　坂本晴彦
TKC山梨SCGサービスセンター長　中村信仁

複製、転載、改編、変更、翻訳、再配布不可。

前列：左から山梨中央銀行関頭取、岡野会長
後列：左から山梨中央銀行勝俣部長、山寺常務、深沢副会長、池田支部長、中込相談役

ると述べましたが、ＴＫＣ会員事務所は従前から「継続ＭＡＳシステム」を活用し、経営者に寄り添い経営支援をしております。具体的には継続ＭＡＳで会社の課題を明確にし、その上で四半期ごとに経営者と対話しながら課題を解決していくようにしています。また継続ＭＡＳの特徴は変動損益計算書の考え方がベースで、限界利益額つまり付加価値額の増加が重要と考えています。固定費についても生産性の低い業務から高い業務にシフトすることで付加価値額向上が可能です。

池田　書面添付シンポジウムに参加された金融機関の方からは「書面添付を行っている税理士の方々の思いを知ることができた。今後は添付書面の記載内容を注視したい」や「書面添付を導入した企業の話も聞くことができ、自店の取引先にも勧めてみようと感じた」等のご感想をいただいております。

交流会・行員勉強会の継続開催を

中込　金融機関の皆様には、ＴＫＣ会員が毎月関与先企業を訪問して月次巡回監査を断行していることをぜひご認識いただきたいと思います。また金融機関が企業へのコンサルティングをされる際、内容に応じて共に手を取り合い、支援をしたいと考えています。特にＭ＆Ａなどのケースでは最初から会計事務所を巻き込んでいただくことが効果的です。

岡野　われわれ職業会計人が社会から絶対的信頼と尊敬を受けるためには、正しい会計帳簿を前提とした税務・会計・保証・経営助言業務（税理士の４大業務）の専門家として、その役割を発揮していくことが求められています。「月次巡回監査の完全実施」と「ＴＫＣシステムの徹底活用」を基盤に、４大業務を実施している証として会員に貸与されるのが「ＴＫＣ全国会バッジ」です。こうしたことも知っていただき、金融機関の皆様と協働していきたいと考えております。

池田　山梨中央銀行様と西東京山梨会は、地域経済発展、中小企業の存続発展という共通目標があります。具体的なツールとして本日お話に出たＭＩＳや書面添付、優良な電子帳簿、４０５事業、ポスコロ事業等を積極的に活用していきましょう。今後はコロナ禍により開催ができなかった地区ごとの交流会についても再開していきたいと考えています。

関　各支部で開催していただいている行員向け研修会は今後も継続願えますか。研修会テキストの『決算書の信頼性の見極め方』は若い行員に大変参考になっているようです。ＭＩＳによる添付書面に加え、ローカルベンチマークと併せて融資先企業の状況把握を判断材料に利用できる点に期待をしております。

（ＴＫＣ西東京山梨会事務局長　坂本晴彦）